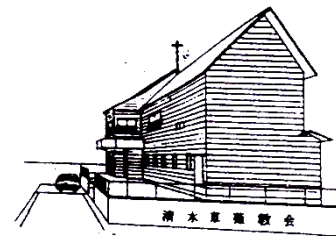


## 《今朝の聖書から》

先週は“姦淫の女”と普通呼ばれている場所を開きました。また来週は、“生まれつきの盲人の話”とか、“シュロアムの池”などと呼ばれている箇所を開きます。このように聖書に、内容に従って、ところどころに小見出しをつけてゆけば、わかりやすくなるのではないかと思います。“創世記”や“黙示録”という聖書の名前も、書いてあることを思い出させてくれるように付けられたものでしょう。私たちの用いている口語訳聖書には、このような小見出しはありませんが、新共同訳聖書には、小見出しがところどころに付けられていてその分順番がわかりやすくなっています。このタイトルには、ちょっと拘束される必要はないのですが、それでも、親切ということはできます。そのようにしますと今朝の箇所には何という小見出しをつけるのが良いのでしょうか。幸い、口語訳聖書には、見出しがないので、自由につけることができます。“真実の裁き(16節)”とつけるかもしれませんが、“主の証(18節)”とするかもしれません。新共同訳聖書をみますと“イエスは世の光”となっています。“この世における、正しい道しるべ”ということ、あるいは“真実な方”ということ強く考えて付けられていることが想像できます。イエス様は14:6において“私は道であり、真理である”と語られましたが、今朝の言葉はもっと力に満ちています。その道を指し示す“光である”と仰っています。さらに“私に従う者は闇の中を歩まない”というのです。“光の内を歩む”ではなく、読む人に“闇の内”を示しているのです。次に証について進められます。私たちの起源や、これから先が、神にのみ明らかな真理であることが、語られます。これが“どこから来てどこへ行く”という言葉の意味です。次にイエス様は、ご自身を“証が真実ではない”と言って裁いた人たちを含めて“裁かない”と仰います。実際、イエス様を受け入れた人々の証は、真実であり、受け入れなかった人々は、すでに、自分で裁いてしまっているのです。宮で、仮り庵の祭りで再びユダヤ人たちに教えられ始めたイエス様に対して、“あなたたちの霊的無知”を指摘されます。不審の内にとどまったユダヤ人たちに対して、世の光であり、復活された唯一の裁き主なる、イエス様の何と明るいことでしょうか。

# 週報

2008年 8月 17日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)